

KAS

風の谷 びゅう **VIE**

社会福祉法人 風の谷
相模原市中央区田名7236-3
発行責任者 政野 光廣
042-760-1033
<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>
e-mail: ykoubou@pastel.ocn.ne.jp



特集 新作業への取り組み：エコキャップ・機織り・七宝焼き

【2014年 秋号】

◇巻頭文	P 2	◇自閉症支援センターより	P 3
◇特集「新しいことを始めてみよう」	P 4・5	◇研修報告～トレーニングセミナー～	P 6
◇ヘルパー便り・グループホーム便り	P 7	◇後援会のページ	P 8

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会 代表者 内田照雄 〒243-0035 厚木市愛甲2-11-6-109
毎月15日発行 購読料1部 15円

「第2やまびこ工房」開所に向けて

皆様ご承知のとおり、やまびこ工房の利用者増加への対応、短期入所事業の拡充、発達障がい者への支援の一層の充実等を図るため、風の谷では現在相模原市南区麻溝台地区に「第2やまびこ工房」（2階建て1棟、平屋建1棟）を建設中です。この施設は本年中に竣工し、来年3月には開所を迎える予定です。

この「第2やまびこ工房」の運用開始によって、より多くの人達に施設を利用いただけることとなるとともに現利用者の方の通園の利便性の向上にもつながることと思います。また、発達障がいの方々の生活安定、就労支援にも寄与することが期待されます。

今後は、利用者の自立/自律生活を促進するとともに保護者の高齢化等も配慮しグループホームの増設等利用者、保護者のニーズに沿った事業の推進を期待します。

風の谷では、生活介護事業（やまびこ工房）、相談支援、移動介護・行動援護、短期入所（相模原自閉症支援センター）、グループホーム（ナウシカ）等、それぞれの自閉症者の求める支援・サービスを提供しています。

現在、市行政から提出を求められている「サービス等利用計画」は、自閉症者が地域で安定的に暮らして行くために、その人の将来のライフプランを見据えて、現在どのようなサービスがどの程度必要かを相談員、保護者で作成する重要な計画です。この計画を基にしてサービス受給が決定されます。やまびこ工房の担当職員の方々としっかり検討して下さい。

風の谷は、今後とも相模原をはじめとする近隣地区における自閉症者への中核的な支援拠点として、地域の支援団体、支援施設、行政とも緊密な連携をとって地域福祉の向上を推進して行くことを期待しています。

社会福祉法人風の谷 評議員 鈴木秀美

~~相模原やまびこ会 作品展~~

「あなたに知ってほしい私たちのこと！」

- ・11月15日(土) 11:00~19:00
- ・11月16日(日) 10:00~19:00
- ・11月17日(月) 10:00~15:00

○会場 : おださがフラザ ラクアルオダサガ4F

○問い合わせ : 080-8870-2733

・art@sagami-yamabiko.jp.org ・http://sagami-yamabiko.jp.org/



相模原自閉症支援センターより

第二やまびこ工房（仮称）に向けて準備中である。

現在準備を進めていることのひとつが、高機能自閉症、アスペルガー症候群といった所謂発達障害者への本格的な支援である。相模原市発達障害支援センターと相模原市立障害者支援センター松が丘園の職員数名と春先より月一回、**第二やまびこ工房検討会議**を持ち、アドバイスを頂き、相模原市の発達障害者支援の現状と個々の特徴そしてどんな支援が望まれるかなどを協議してきた。

広く発達障害と言えば様々なニーズがあるが、今までやまびこ工房が大事にしてきた支援スタンスは変わらない。重度の知的障害がある自閉症者であっても、高機能自閉症者であっても、支援の土台は個々の障害特性に合わせた支援スタイルである。それは他の施設との違いでもある。例えば、この秋にも来春養護学校を卒業される方の実習を受け入れる。他の施設であれば、その施設の“売り”である作業（パン作り、機織りなど）に参加できるかが実習の評価になると思われるが、やまびこ工房の場合はそういうものがない。どのようにスケジュールや活動や場所を提示すれば、落ち着いて充実して過ごせるかの評価をするだけで、受け入れ可能かどうかは極端に言えば、本人よりも支援者の観察力と支援する力による。

一方、やまびこ工房の欠点は明確な“売り”がないことである。個別支援と言われてもどんな支援をしてくれるのかわからない。飲食店に入ってメニューがないよりはそれなりにメニューがあった方がいいし、出来ればメニューが多い方がいいというのは**第二やまびこ工房検討会議**で出された意見であった。

先日、発達障害者向けにデイケアプログラムを提供されている昭和大学附属烏山病院リハビリテーションセンターを会議メンバーと一緒に見学させてもらった。週1回のプログラムに10名前後の方が参加され、最近あったことを個々に話し、その都度テーマがあって、感情のコントロール、コミュニケーション、障害理解などについて話しあう。そして約半年で卒業となる。卒業しても別のプログラムに参加したり、卒業生の集まりがある。見学時に伺った担当の方は「このように言うては失礼かもしれないが」と前置きされた上、「プログラムで何か変わるとは思わないが、参加者はそこで当事者同士の交流を求めている」という主旨のことを言われた。

見学前にプログラム修了者の話を伺う機会があった。長年、自分の障害に気づかず、気づいた時は自己否定的であったが、プログラムに参加し、他の参加者に刺激を受けたり、プログラムを手伝っている方がプログラム修了生であるのを目の当たりにして、「自分もああなりたい」というようなことを言われていた。

以前にノースカロライナ大学のゲーリー・メジボフ先生の話をお伺いする機会があった時に、TEACCHプログラムのコア・バリュー（中心となる価値観）について言及された。その一例として自閉症者のサークルでヨガに取り組み、終了後のミーティングで、参加者の1人がディレクターに「あなたは自閉症でなくて残念」と言われたとのことであった。この言葉は自己肯定感がなくては出てこない言葉であろう。

ある利用者は「やまびこ工房は障害者ばかりで友達がなくてつまらない」と言われた。またある方は「どうして15歳から知的障害者になったの？」（中学校まで普通級で、高等部から養護学校に行かれた方）と言われた。自己肯定感が持てる支援は目標とするところであるが、利用者支援者の関係の中だけでは生み出せないように思う。当事者同士の触れ合いの場をどう作っていくかが、今後の課題と思っている。

（薬師丸和浩）

新しいことを始めてみよう！

利用者が増え、今まで以上に幅広い活動に取り組めるようになってきました。そこで新しい活動に取り組んでみてはどうかということで、新たな自主製作品につながったり、社会と関わりを持てたりするような活動を始めています。今回はその中で現在取り組んでいる3つの活動についてご紹介します。

～エコキャップ～

“ペットボトルのキャップをリサイクルして、ワクチンにする”この活動に参加する機会を頂きました。利用者さんが参加する大まかな工程は「回収」と「仕分け」です。まずは、“誰と”“どこで”“何をするか”職員間でシミュレーション。「これは得意でしょ!」「ここはこだわるだろうなあ。」云々、自閉症に特有の“こだわり”の強さと利用者さんそれぞれの好みや得意な事などを想定しつつ、取り組みを設定。そして、実行！果たしてその結果は…？！

回収：車に乗って出発。担当の店舗（複数のコンビニエンスストア）にて回収し、受け取りサインをもらう！

◇長時間の移動は平気かな？

- 毎回同じ店舗でなくても、大丈夫？
- 買い物しなくても納得できる？

- ・挨拶できた！
 - ・ドライブ（ラジオや職員とのコミュニケーション）楽しそう♪
 - ・積み込みは、空き缶回収の経験が活かされている！
- でも計量するから、もう少しゆっくりお願いします…

仕分け：エコキャップ（ペットボトルのキャップ）とそれ以外に分ける！

◇どこで（場所）分ける？衛生面が心配なので洗浄しよう！色分け、マッチング、型はめ…方法は？

- ・醤油のふた、プルタブやゴミなども…。ケガには注意！
- ・色、サイズは想像以上に種類が豊富！あ、BOX 足りない…
- ・キャップは白だけど、カラフルな印刷が…。悩むよねえ
- ・向き、メーカーや商品名がきっちり並んでいる。やっぱり！
- ・「これは？」との質問が！
- 「それはキャップじゃないね」で仕分けられた！！



一部の工程でも、実際に取り組んでみると試行錯誤の連続。“どこまで”また“何のために”取り組むのか？利用者さんはどう思っているのか…悶々とする。しかし、仕分けられたキャップが積み重なるにつれ、目を輝かせて種類ごとに並べたり、「キャップやる！」と自分の活動の一つとして意識していたりする姿に励まされます。当たり前なことではありますが、必要とする支援内容が一人ひとりに違うように、こちらが利用者さんに求めることも一人ひとり違って良い。取り組む目的や成果だって、それぞれ別で良い。まだ取り組み始めたばかりで、反省点や改善点はたくさんあります。それでも継続して取り組むことで見えてくる変化や可能性、生まれるアイデアや他の工程への参加など、今後の活動の幅が広がるヒントが見つかるように感じます。

自立課題や新たな活動を1つ生み出すこともまだまだ大変な現状。社会参加という大きな枠組みの中で、自閉症に特有の“こだわり”が“強み”になる。こんな素敵な活動は滅多にないはず！まだまだ職員視点ではありますが、楽しみながら焦らずのんびりと、でも着実に進めていきたいと思えます。“こんな方法は？”“うちではこんな感じで取り組んでいるよ！”など、ご意見・ご感想がありましたら是非やまびこ工房まで！！

～機織り～

工房にきて間もない頃に教えていただいた機織りを4年半越しに再度チャレンジしています。織り始めるまでの工程が多い機織りですが、その段階から一緒に取り組んでいます。準備から仕上げの工程まで取り組んでいくことで、“こうやって形になるんだ！”という実感ややりがいを持つ仕事の一つになれたらと思います。

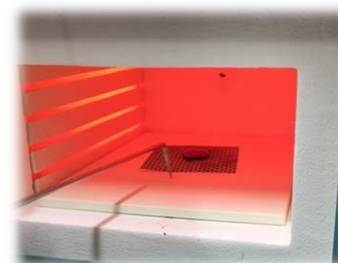
新しいことを始めるのは億劫になってしまいがちですが、いざ始めてみると楽しいものでした。一人一人に合った仕事を探っていくためには、まずやってみようという気持ちになって動き出していくことが大事なのだと改めて思いました。

縦糸をかけていきます。二人の力の加減が重要！

着々と編み進めていきます。

完成！
11月の作品展に
乞うご期待!!

～七宝焼き～



七宝焼きは、金属製の素材の上にガラス質の釉薬（ゆうやく）を乗せ、高温で焼き付けることでできる工芸品です。やまびこ工房には開所当時から七宝焼き用の電気炉をはじめ、用具一式があったのですが、それらが未使用のまま保管されていたので、この機会にと思い、取り組み始めました。

作業工程は多く、素材や釉薬の下洗いから、釉薬を塗り、素材を乾燥させ、焼き付けるといった手順があります。現在利用者には素材に釉薬を塗る部分をお願いしています。厚さ1mmに塗らねばならず、また素材自体も小さめのため、細かい作業が得意な方をお願いしています。

工芸品として皆様にお見せできるようになるためにはまだまだ時間がかかりそうですが、とても綺麗なものが仕上がるので、何とか頑張っていきたいところです。





第17回自閉症療育者のためのトレーニングセミナー報告

8月2日（土）より5日間で行われた「自閉症療育者のためのトレーニングセミナー」に参加させていただき、TEACCH プログラムを学ぶ素晴らしい機会となりました。

日本では TEACCH プログラムは単純に「絵カードやスケジュールを使用すれば良い」などと誤解されている部分が多いのですが、実際は全く違う物であり、ノースカロライナ州で実施されている、自閉症等コミュニケーションに障害のある子供達やその家族への包括的なプログラムの名称です。個別教育計画を作成し、「構造化された環境で認知発達を促す」というコンセプトにしたがって行われています。



セミナー1日目に「TEACCH プログラムの紹介と解説」が行われました。2日目以降は自立課題の組み立て、余暇活動、コミュニケーション、家庭生活スキルをテーマに協力児・者との関わる場面が多く設定され、そのなかで理解を深めることができ、幅広い年齢の方の生活や環境、一人一人の特性に合わせて構造化、再構造化を行う重要性を感じました。また、やまびこ工房の利用者と似た特性を持った方もいて、実際の日常の支援と照らし合わせる事の出来る実習となりました。

また、今回のトレーニングセミナーで TEACCH プログラム以外に、5名の協力児・者の家族によるプレゼンテーションが行われました。子供の障害を受け入れる苦悩や、一人でも多くの方に障害を理解してもらいたいという強い想いを語られていました。途中涙を流しながら語られる場面もあり、心に響くプレゼンテーションでした。どの家族の方も「この仕事を続けてください」と口を揃えて言われていたことが印象的で、改めて自分の仕事の意味や役割、この職種の素晴らしさを感じました。

この5日間のトレーニングセミナーで学ぶ事は非常に多く、現在私がやまびこ工房で担当している作業室は各利用者に本当に適した環境なのか、スケジュールは適しているのか、自立課題はどのような意図で取り組んでいるのかなど改めて考えさせられ、見直す必要があると感じました。今回の研修で学んだことを基に、今後各利用者にも少しでも過ごしやすい環境を提供させていただければと思います。また、多くの方々のご協力で、今回のトレーニングセミナーに参加できたことに深く感謝しています。

（森谷）



 ヘルパー便り 

「時間がもたないから、少し我慢して過ごしてもらおう」

Aさんのガイヘルの一つのパターン、カラオケとウォーキングについて、カラオケの時間は帰宅時刻までの時間調整と歩きづめのAさんに休憩をとってもらうために設定している。

しかし、普段から一つの場所に留まっていることが得意ではなく、体を動かすこと特に外を歩くことが好きなAさんには、狭い部屋で1時間以上過ごすカラオケは、あまり楽しくないのではないかと考えていた。ただ、歌謡曲や童謡を聴くことは好きで、愛用のラジカセでCDを聴いて過ごすこともできる方であるが、歩き回りながらその合間に聴くという楽しみ方が多いため、やはりカラオケの時間をどう設定するかというのは一つの課題と考えていた。

今回、実際にその活動に同行させていただく機会を得て、カラオケ店の個室で過ごしてみると曲のリクエストが続き、曲に合わせて体を踊るように動かしながら唄うAさんの姿があった。何より笑顔が絶えず、特に「海、その愛」と「お魚天国」はお気に入りのようで繰り返しリクエストされていた。その合間に曲調やリズムが似ている曲を試しに入れてみると、それも笑顔で聴かれ、あっという間に1時間半が過ぎてしまっていた。自分の中に凝り固まっていたAさんの活動のイメージが一気に変わり、これまで設定してきた内容を十分に楽しんで頂けている様子を実感することができ、安心できた。

同じ活動、同じ場面を共有させてもらえることで、直接Aさんの好みや、その楽しみ方に触れることができた。今後の活動内容の充実間違いなく生かしていけると思っている。

(野田)

 グループホーム便り 

いきなりですが皆様はテレビは好きですか？

特に夏が終わり、季節が秋に変わるこの時期はテレビ局の改編期になります。新しい番組が始まったり、特番が組まれたりと見逃せない番組が盛り沢山です。ナウシカで暮らす方々はテレビが好きなので、今回はそんなテレビについてのお話をしたいと思います。

Aさんは音楽が大好きです。特80年代の曲が大好きで、音楽番組の特番で80年代ヒットメドレーなどが放送されるとテレビの前に立ちノリノリで踊りだしながら聴いています。

Bさんは番組ではなく「日本テレビ」が大好きです。ご自身の居室に戻られると真っ先に4チャンネルをつけられます。

CさんはNHKです。Cさんは時間に正確な方なので「8時」「9時」等と節目の時間を確認する為にNHKをご覧になっています。

そんな中でもDさんは特にテレビ好きで、音楽やバラエティー、ドラえもん等のアニメから国会中継まで様々な番組をご覧になっています。私が部屋に伺うとご覧になっている番組について色々教えてくださいます。以前伺った際にとある議員さんが国会で答弁中の画面を指差して「また何か言っているよ」と笑いながら言われたのは印象的でした。

そんなDさんですが最近スポーツ番組に夢中です。逸ノ城関が話題になった今回の大相撲は真夜中に起きてまで再放映されている取り組みをご覧になり、声が出るほど熱心に応援されました。

このようにナウシカの皆さんは各々の方法でテレビを楽しまれています。今後もより充実した生活が送れるように楽しめる環境を整えたいと思っています。

(田辺)

後援会のページ

風の谷後援会、やまびこ工房家族会、並びに職員の皆様、あたたかいご支援、ご協力をいただきまして心よりお礼申し上げます。

先日のNHKテレビで、自閉症者の東田直樹さんと外国人作家との出会い「君が僕の息子について教えてくれたこと」が放送されましたがご覧になりましたでしょうか？感じ方は人それぞれでしょうが東田直樹さんの本「自閉症の僕が跳びはねる理由」は、世界中の自閉症児・者の親達に希望をあたえました。家族で笑っているときが自分の幸せだと私に教えてくれました。私はこれからも増えるシワを気にせず笑顔でいようと思います。

8月23日の納涼祭(相模原納涼花火大会見物)は、毎年楽しみにして下さっているご家族、初めて参加のご家族など、やまびこ工房屋上で和やかに行われました。

ブルーベリージャム作りは、9月20日に家族会のご協力で約270本の美味しいジャムが出来上がりました。猛暑の中、多くの方々がブルーベリー摘み取りをして下さいましたことを感謝いたします。

来年春には、第2やまびこ工房が開所いたします。

今後共より一層の後援会へのご支援をよろしくお願い致します。

風の谷後援会 事務局 上城 久美子



平成26年7月1日～平成26年9月17日(五十音順敬称略)

【更新・個人】

(相模原市)

内田まゆみ 鏡京子 川勝登美子 菊間政好 鹿野徹子 野口和代 三田二三夫 山口彰一

(相模原市外)

合津紀子(上田市) 青山恵子(横浜市) 江澤恵(さいたま市) 済田順子 済田安司(世田谷区)
下田浄(所沢市) 下田武(シンガポール) 竹花三枝(町田市) 塚本寿子(福井県) 中島敏晴(札幌市)
中屋敷剛(川崎市) 成瀬富子(平塚市) 藤野孝夫(厚木市) 松岡ヒサ(青森県) 村岡嘉紀(大和市)
村上信治(熊本市) 清水洋子(横浜市)

【更新・団体】

相模原やまびこ会 (有)伸和トラスト

【ご寄附・ご協力】

新宿自治会 日本環境設備(株) (有)伸和トラスト ワーカーズ キュービック相模原

風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的としております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口:3,000円/年間 団体会員 一口:10,000円

※一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

<お問い合わせ先>

〒252-0244 『風の谷後援会』事務局

相模原市中央区田名 7236-3 社会福祉法人「風の谷」内 TEL:042-760-1033 FAX:042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345

他の金融機関からの振込先 ゆうちょ銀行 9900 店番 029 当座 0015345